

3

ペットフードの保存方法

3-1 ペットフードの保存方法

- ペットフードは種類によって保存方法や保存期間が異なります。保存状態が悪いと犬猫の健康に影響することもあるため、正しい保存方法を守りましょう。

ペットフードの取扱い一般

ペットフードの種類に合わせた適切な取扱いを心がけ、賞味期限内に使い切りましょう。保存状態が悪いと、賞味期限内でも品質が悪くなることがあります。またフードを与えるときに使用する食器等の衛生面にも気をつけてください。フードの残りかすや水分は、微生物の格好の繁殖場所となります。使い終わった食器等はきれいに洗い、乾燥させて清潔な場所に保管しましょう。食器の後片付けや、食べ残しの片付けが済んだら、最後に石けんで手を洗い、飼い主にとっても犬や猫にとっても衛生的な環境を保つように心がけましょう。



●ドライフード、ソフトドライフード 使用期限の目安：開封後約1か月

袋をしっかり閉じて、直射日光が当たらない、温度・湿度が低い場所で保存しましょう。

冷蔵庫で保存すると、与えるときの出し入れの際に、フード表面に結露を生じ、カビ等の発生の原因になることがあるので常温で保存するようにしましょう。

開封後は、なるべく早く使い切れるように犬や猫の大きさにあったサイズの製品を選びましょう。

ドライフードは比較的長期間保存できる利点がありますが、食器に出した後は、時間とともに香りや食感が失われます。また、犬や猫の唾液がついたまま放置すると、有害な微生物が発生する可能性があるため、食べ残しは放置せずに片付けるか、定期的に新しいものに交換しましょう。



●セミモイストフード 使用期限の目安：開封後2週間程度

袋をしっかり閉じて、冷蔵庫で保存しましょう。

開封後は袋をしっかり閉じて冷蔵庫で保管し、使う分だけを冷蔵庫から取り出して与えましょう。

密閉できる袋や容器に入れて冷蔵保存するのも有効です。



●ウェットフード 使用期限の目安：開封後1日

開封したらすぐに与えましょう。

未開封の缶詰やレトルトフードは、直射日光が当たらない温度変化の少ない場所で保存しましょう。未開封であれば長期間保存できる利点があります。

開封後に余ってしまった場合は、別の容器に移し替えて冷蔵庫で保存し、その日のうちに使い切りましょう。1日以上保存する場合は冷凍保存して、与える際に解凍する方法も可能ですが、食味等を損なう場合があります。

また、食器に出した後の酸化、腐敗、有害微生物の繁殖等の品質の変化が、ドライフードに比べて早いため、20分程度を目安に片付けましょう。

